

トランスクリプト

司会：冒頭のあいさつ

それでは、お時間となりましたので、東京エレクトロン株式会社 2022年3月期 第2四半期の決算説明会を開始いたします。本日はお忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。わたくし、司会進行を務めます、IR室の八田です。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の出席者の紹介をいたします。取締役 社長・CEO 河合利樹でございます。続きまして、そのお隣、取締役 専務執行役員 Global Business Platform 本部長 ファイナンス部門担当 布川好一でございます。なお、会長の常石は、業務上の理由によりやむを得ず、本日の決算説明会は欠席させて頂いております。次回の決算説明会には参加予定でございます。

プレゼンテーションに先立ち、わたくしから、本日の会の流れについてご説明させていただきます。これより、布川、河合のプレゼンテーションをお聞きいただきます。その後 18:00 まで、質疑応答のお時間を設け、皆様からのご質問をお受けしたいと思っております。本説明会は、Webex を 2 回線使い、日英の同時通訳で行っております。先日、メールでご案内させていただいた通り、音声のみお聞きになりたい方は、電話でもご参加いただけますが、ご質問されたい方は、PC もしくはモバイル端末のアプリをお使いください。また、本説明会は機関投資家様・アナリスト様向けの説明会となっております。大変申し訳ございませんが、回答は、従来通り機関投資家・アナリストの方々のご質問に限らせていただきます。本説明会につきましては、後日、日英の音声配信をホームページ上に掲載しますので、こちらも併せてご利用ください。

それでは、はじめに、取締役 専務執行役員 布川より、「連結決算の概要」について、ご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

第2四半期 連結決算の概要

布川 好一（取締役 専務執行役員 Global Business Platform 本部長）

こんにちは。ファイナンス部門を担当している布川でございます。では、早速、2022年3月期 第2四半期の連結決算の概要について、ご説明します。

損益状況（半期）：スライド 4

こちらは、半期ベースの業績を示したものです。今上期の売上高は、9,325 億円となり、8月16日発表の予想を上回って着地しました。また、半期としては過去最高の売上高となりました。

SPE 売上高は、新規 POR 獲得の売上貢献や、好調なフィールドソリューション売上を受けて、予想を上回り、9,057 億円となりました。FPD 売上高は、266 億円。こちらはほぼ予想どおりの着地となりました。

売上総利益率は 45.3%、営業利益率については 29.5%と、ともに予想を上回って着地しました。また、

トランスクリプト

半期としては、両利益率ともに過去最高となりました。

損益状況（四半期）：スライド5

こちらは、四半期ベースの業績になります。

第2四半期の売上高は、前四半期比 6.3%増加の4,804 億円となりました。第1四半期に続き、四半期として過去最高の売上高を更新いたしました。

セグメント別に見ますと、SPE 売上高は、4,678 億円となり、こちらも四半期として過去最高となりました。FPD 売上高については、125 億円となりました。

売上総利益率は 44.1%、営業利益率は 27.7%と高い水準を維持しました。前四半期比で低下しておりますが、研究開発費の増加が主な要因です。

損益状況（四半期）：スライド6

こちらは四半期ベースの業績をグラフで示したものです。

セグメント情報（四半期）：スライド7

こちらは、セグメント情報 になります。

SPE は、売上高 4,678 億円、利益率は 32.7% となりました。SPE 各製品群の順調な売り上げに加え、フィールドソリューション売上も好調に推移し、売上高は前四半期から伸ばいたしました。利益率につきましても、引き続き高水準を維持しています。

FPD については、売上高 125 億円、利益率は-6.2% となりました。今後の成長を見据えた投資を継続しており、今期の計画に対して順調に進捗しています。

売上構成比としては、第2四半期は、前四半期から変わらず、SPE が 97%、FPD は 3%となりました。

SPE 部門 地域別売上高（四半期）：スライド8

こちらは、SPE 部門の地域別売上高になります。主に、台湾および北米向けが増加しています。

SPE 部門 新規装置 アプリケーション別売上構成比（四半期）：スライド9

こちらは、SPE 部門の新規装置のアプリケーション別 売上構成比になります。

第2四半期は、下から、ロジック 53%、不揮発性メモリ 18%、DRAM 29%となりました。

メモリにおいては、顧客の投資タイミングによる構成比の変動はありましたが、上期としてみますと、ロジックとメモリの比率は 1 : 1 となっています。

フィールドソリューション売上高（四半期）：スライド10

こちらは、フィールドソリューション売上高になります。

トランスクリプト

第2四半期は、1,205億円となりました。堅調なパーツサービスに加え、改造案件が増加したことを受け、前四半期から大きく増加しました。

貸借対照表（四半期）：スライド 11

続きまして、貸借対照表についてご説明します。

資産合計は1兆6,340億円、現金同等物は4,204億円、売上債権及び契約資産は3,013億円、棚卸資産は、3,941億円。

負債は4,481億円、純資産は、1兆1,858億円となりました。利益剰余金の増加を受けて、前四半期から増加いたしました。また、自己資本比率は71.8%となりました。

棚卸資産・売上債権の回転日数（四半期）：スライド 12

こちらは、棚卸資産と売上債権の回転日数になります。

棚卸資産回転日数は、86日となりました。売上債権回転日数については、66日となりました。

キャッシュ・フロー（四半期）：スライド 13

最後に、キャッシュ・フロー になります。

営業キャッシュ・フローは946億円、投資キャッシュ・フローは▲155億円、財務キャッシュ・フローは▲2億円、フリー・キャッシュ・フローは790億円となりました。

以上、連結決算の概要についてご報告させていただきました。

司会：次のプレゼンテーションの紹介

それでは、続きまして、CEO 河合より、「事業環境および業績予想」について、ご説明申し上げます。よろしくお願いたします。

事業環境および業績予想

河合 利樹（代表取締役社長・CEO）

皆さま、改めましてこんにちは。河合でございます。私の方から、「事業環境および業績予想」についてご説明申し上げます。

CY2021 事業環境（2021年11月時点での見方）：スライド 15

CY2021のWFE市場につきましては、前回、8月の決算説明会の際には、前年比4割程度の成長を見込んでいましたが、社会のデジタルシフトの進展による半導体需要に牽引され、最先端のみならず、成熟世代向けの投資も一段と高まっています。このような背景から、CY2021のWFE市場は、前年比5割に迫る成長の見通しです。

トランスクリプト

FPD TFT アレイ工程向け製造装置の市場につきましては、変更なく、前年比 2 割程度の減少の見通しです。

CY2021 アプリケーション別の WFE 市場と事業機会：スライド 16

続きまして、WFE 市場のアプリケーション別の見通しについてご説明します。

ロジック/ファウンドリは、前回、45%の成長を見込んでいたものを、今回 60%程度の増加に変更しました。DRAM につきましては、見方に変更はなく、60%程度の増加を見込んでいます。また、不揮発性メモリにつきましては、前回から若干上方修正し、前年比 20%程度の増加を見込んでいます。

FY2022 上期 事業進捗：スライド 17

次に、FY2022 上期の事業進捗についてご説明します。

先程、布川から報告いたしましたとおり、今上期は、売上高、利益ともに、過去最高を大きく更新しました。その背景には、注力製品の量産採用と、フィールドソリューション事業が計画通りに進捗したことが挙げられます。なお、フィールドソリューション事業においては、半期売上が 2000 億円を超える規模になりました。また、中期経営計画の達成に向けては、微細化やパターンングに重要な製品群の新たな POR 獲得が進展しているほか、先端パッケージ技術の進化で、需要増が見込まれる、ウェーハローバの新製品のリリースをおこないました。

その他、拡大する WFE に備え、宮城技術革新センターの竣工、次世代 High-NA EUV における imec-ASML との共同評価契約の締結、環境に配慮した高性能装置の創出に向けたサプライチェーンイニシアティブ E-Compass を立ち上げました。データ社会への移行が加速する中、これらの活動を通じ、半導体の技術革新の推進に貢献していく所存です。

FY2022 業績予想：スライド 18

次に、FY2022 業績予想についてご説明します。

FY2022 業績予想：スライド 19

上期実績の反映、および、これまでご説明させていただきました旺盛な需要を背景に、今期の業績予想を上方修正しました。

8 月決算発表時と比較し、通期売上高は 500 億円増額の 1 兆 9,000 億円、売上総利益は 370 億円増額の 8,610 億円、営業利益は 430 億円増額の 5,510 億円、当期純利益は 300 億円増額の 4,000 億円となる計画です。

通期の利益率につきましては、売上総利益率 45.3%、営業利益率 29.0%となる見込みです。売上高、営業利益、営業利益率すべての項目で、過去最高となる見込みです。引き続き中期経営計画の達成に向け、尽力してまいります。

トランスクリプト

FY2022 SPE 部門 新規装置売上予想：スライド 20

次に、FY2022 の SPE 部門 新規装置の売上予想についてご説明します。

ご覧のとおり、上期売上は 6,955 億円となり、半期ベースで、過去最高であった FY2019 上期の 5,043 億円を大幅に上回りました。下期もさらに売り上げを伸ばし 7,345 億円、結果、通期の新規装置売上高は、前年比 48%増加の 1 兆 4,300 億円となる見込みです。カレンダーイヤーベースの新規装置の売上高は前年比 60%に迫る増加となり、WFE 市場の成長率をアウトパフォームする見込みです。なお、アプリケーション別の構成比につきましては、変更ありません。

FY2022 研究開発費・設備投資計画：スライド 21

次に、研究開発費と設備投資の計画です。

こちらは前回、8 月の決算説明会から変更ございません。FY2022 は、いずれも過去最高となる見通しで、研究開発費は 1,650 億円、設備投資は 640 億円を計画しています。また、減価償却費につきましては 430 億円となる見込みです。拡大する市場と多様化する最新の技術ニーズに応えるため、積極的な研究開発と設備投資を加速していきます。

FY2022 配当予想：スライド 22

最後に、配当予想についてですが、今期の業績予想と、配当性向 50%に基づき、上方修正しています。

1 株当たりの配当は、通期で 1,284 円を予定しています。過去最高の配当額となる見込みです。

当社は 10 月 29 日より、TOPIX Core30 の構成銘柄に採用され、大変光栄に思っております。今後も付加価値の高い製品とサービスのもと、半導体の技術革新を追求し、企業価値向上に努めてまいります。

以上、私の方からの説明でございました。